

【科目名】聴力検査法		【担当教員】大平 (メールアドレス) ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー) 月、水、木、金 9:00-17:00							
【授業区分】専門分野 (聴覚障害学)	【授業コード】 5-31-1215-0-1								
【開講時期】3年次・前期	【選択必修】必修								
【単位数】2単位	【コマ数】15コマ								
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) なし (受講のルールに関わる情報・予備知識) なし									
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士に必要な聴力検査法の中でも純音聴力検査、自記オーディオメトリ、インピーダンスオーディオメトリ、語音聴力検査、補充(リクルートメント)現象検査、乳幼児聴力検査は重要である。これらに精通することを目的とする。 (方法) 純音聴力検査、自記オーディオメトリ、インピーダンスオーディオメトリ、語音聴力検査(語音了解閾値検査、語音弁別検査)、補充(リクルートメント)現象検査、乳幼児聴力検査(BOA、COR、ピープショウテスト、遊戯聴力検査)等について、それらの意義、適応、結果の解釈等について学習する。									
【一般教育目標(GIO)】 ・各種聴覚検査の意義を理解し、実施手順、検査結果の読み方を習得する。 ・年齢や聴覚障害の種類・程度に応じた評価ができ、治療・訓練・指導へ活用できる。									
【行動目標(SBO)】 ・聴力検査の検査方法およびおおよび読み取りを説明できる。									
【教科書・リザーブドブック】									
【参考書】 日本聴覚医学会(編) 聴覚検査の実際 南山堂 2009 3400円+税									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・授業に取り組む姿勢を重視します。頻繁にごく簡単なレポートを課します。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		50					100点
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
学修に取り組む姿勢				50					50

平成 26～28 年度入学者用

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の 運営方法	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 聴力検査の分類と検査音、記録用紙、閾値の 決定方法	講義	配付資料の復習	15分
2	純音聴力検査： 準備と予備検査	講義	配付資料の復習	15分
3	純音聴力検査： 本検査の実施手順、平均聴力	講義	配付資料の復習	15分
4	マスキング： 意義、実施方法	講義	配付資料の復習	15分
5	語音聴力検査： 語音了解閾値検査、語音弁別検査	講義	配付資料の復習	15分
6	閾値を表す単位： dB SPL と dB HL	講義	配付資料の復習	15分
7	インピーダンスオージオメトリ： ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査	講義	配付資料の復習	15分
8	内耳機能検査： リクルートメント現象 SISI 検査、自記オージオメトリ	講義	配付資料の復習	15分
9	内耳機能検査： ABLB、メッツテスト	講義	配付資料の復習	15分
10	他覚的聴力検査： 聴性脳幹反応 (ABR)、蝸電図	講義	配付資料の復習	15分
11	他覚的聴力検査： 耳音響放射 (OAE)、聴性定常反応 (ASSR)	講義	配付資料の復習	15分
12	乳幼児聴力検査： BOA、COR、遊戯聴力検査	講義	配付資料の復習	15分
13	スクリーニング検査： 3歳児健診、新生児聴覚スクリーニング	講義	配付資料の復習	15分
14	補聴器適合検査	講義	配付資料の復習	15分
15	総復習	講義	配付資料の復習	15分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。